



Butterflies No.85 Newsletter

The Butterfly Society of Japan 日本蝶類学会

2023年度総会・大会は12月9日!



晩夏の草原で命を繋ぐゴマシジミ

▲岡山県真庭市(旧中和村)にて 2022年8月20日 撮影:楠本優作

約一ヶ月間のラオス遠征から帰ってきた時、自宅の安心安全で快適な空気感に悶々としたものを感じていた。刺激的な日々からの解放は平和な世界で生きる幸せなのだろう。でも虫屋の心は刺激を求めている。そうだ、ゴマシジミを見に行こう…。そう思ったら車に車中泊の荷物を載せて、気がつけば西へ向かっていた。

中国山地には遙々遠くから来た疲れも忘れるような夏の山、草原、田園風景が広がっていた。そしてそこには小さく

も確かな彩りを添えるゴマシジミが今年も舞っていた。残念なことに西日本のゴマシジミは、ニュースレターNo.83で斎藤基樹氏が紹介された北海道のゴマシジミとは真逆の運命を辿って激減している。私のような若年者にも西日本各地のゴマシジミを観察するチャンスがまだ残されていたのは奇跡かもしれない。でも次の世代は私と同じ青春の思い出を作ることはできるのだろうか。真剣に考えさせられてしまう。

バタフライズニュースレター No.85 2022年 9月

日本蝶類学会 001

★2022年度第3回理事会議事録

- 【日時】 2022年12月10日(土) 11:00～12:00
- 【場所】 東京大学総合研究博物館3階第一演習室(東京・文京区本郷) / オンラインZoom
- 【出席】 菱川法之(会長)、増井曉夫(副会長)、矢後勝也(副会長)、工藤忠、長谷川大、栗山定、関康夫、Yu-Feng HSU、上田俊介、上原二郎、齋藤光太郎、斎藤基樹、杉原由一、渡辺康之、高崎浩幸
- 【陪席】 井上健(監事)、宇野彰(副編集委員長)、小沢英之(財務委員長)
- 【委任状】 加藤義臣、坂田潤一、稲岡茂(以上、理事)
- 【議事】
- ◆各委員会からの報告
- 2023年度事業計画
 - ◎ 2023年度に対馬市博物館の企画展の後援でバナー・フォーラム開催を検討
 - 2022年度決算と2023年度予算(財務委員会)
 - WEBサイト更新について⇒WEBサイトリニューアルの小委員会を立ち上げて検討を始める

★2023年度第1回理事会議事録

- 【日時】 2023年3月4日(土) 14時00分～16時30分
- 【場所】 東京大学総合研究博物館第一演習室(3階)及びZoomによるオンライン会議
- 【議長】 増井曉夫(副会長)
- 【出席者】 菱川法之(会長)、矢後勝也(副会長)、稲岡茂*、上田俊介、上原二郎*、工藤忠*、齋藤光太郎、坂田潤一*、関康夫、高崎浩幸*、長谷川大(以上、理事) *はZoomでオンライン参加
- 【陪席】 小沢英之*(財務委員長)、久保田瑛子(編集委員・WEB担当)、谷尾崇*(会員・対馬市博物館)、伊藤勇人(会員)*はZoomでオンライン参加
- 【委任状】 栗山定、Yu-Feng HSU、加藤義臣(以上、理事)
- 【議事内容】
- 対馬フォーラムの開催について
 - 日本蝶類学会の後援承認
 - バナーフォーラムを特別展に合わせて対馬で開催
 - 開催日時:7月8日(土)



■2023年度の会員総会・大会の日程は12月9日(土)に開催されます。会場はいつもの東京大学理学部大講堂です。今年も国内外問わず最新の蝶の話題を提供する予定です。皆様ご予定を空けておられますようお願い申し上げます。

23年度「総会・大会」について

- ★2023年度 会員総会・大会
【日時】2023年12月9日 (土)※時間未定
- ※演題の集まり具合を見て開
始時間を決定いたします。
- 講演スライドはマイクロ
ソフトのパワーポイントで作
成し、期日までに事前送付下
さい。
- 講演いただく場合にはA4
分とします。
- 持ち時間は質疑応答を含め15

- ★大会の演題を
大募集します!!
- 締め切りは10月20日です!!
- 【一般講演・募集要項】
- 講演の申し込みは会員に限ります。ただし共同発表者に非会員が入ることは構いません。
 - 演題は蝶に関するものであれば幅広く受け付けます。講演の演題・内容について簡単な工程で構いませんので以下の事務局までメール送信下さい。
 - 講演の採否は実行委員会に一任ください。

【申し込み先】

日本蝶類学会2023年度大会事務局宛
E-mail: bsj@shobix.co.jp
TEL 03-3812-5223/Fax 03-3816-1561
(いずれも平日のみ)

【問い合わせ】

TEL 03-3812-5223/Fax 03-3816-1561
(いずれも平日のみ)

12月の大会演題を募集します!!



▲全員集合！リアル参加者だけでなく、オンライン参加者も含めると120人以上になった。

2022年度総会・大会報告

12月10日
東京大学理学部大講堂



▲総瀬賞を受賞した江隆史氏(左)と薮川法之会(右)

コロナ禍で2年連続開催できなかった総会大会が、2022年12月10日にハイブリッド形式で東京大学理学部大講堂にて開催された。当日予りギリギリまでコロナの感染状況が懸念されたが、無事に開催できた。リアル参加者、オンライン参加者併せてアックスで120人程度と盛況となった。大会終了後にはイタリアシメントラックで懇話会も開くことかできた。懇話会は飛び入り参加者もあって大いに盛り上がった。当日は下のような演題

- ◎江隆史(大阪昆虫同好会)【総瀬賞受賞記念特別講演】「チョウの趣味と歩む人生」
- ◎楠本優作(順天堂大)「モンキアザハレ御蔵鳥・神戸津島田種 *Papilio halictus foshioae* に関する考察」
- ◎小田康弘(日本蝶類学会)「越冬する蝶の写真からの雌雄判別法」
- ◎勝山 豊(京都大学蝶類研究会OB会、6大陸クラブ)「標本採取のメタデータ認識による東南アジア産蝶のミミクリ分析の基礎検討」
- ◎谷尾 崇(対馬博物館)「開館した対馬博物館と収蔵資料の中から特筆すべき蝶類標本について」
- ◎添衛太郎(Taxonomic Science Inc.)「フクロガタの奇怪なツジ *Emmaea adala* の生態について」
- ◎Yu Feng HSU(National Taiwan Normal Univ.)
"Dialogue between ancient artists and modern biologists - Identification of butterflies and moths on the antique paintings in the collection of the National Palace Museum at Taipei"

◎開催場所：対馬市博物館 館内講演室

◎講演者：長谷川大(ゼファルリスについて)、矢後勝也(ツシムウラボシジミについて)
対馬への旅費等は対馬市から支払われるため、日本蝶類学会からの支払いはない。

2. HPリニューアルについて

宣伝力の強化や、学会業務のデジタル化を進めるため、上田俊介(理事)、長谷川大(理事)、久保田英子(編集委員・WEB担当)の3名からプレゼンテーションがあり、今後の方向性について討議。

ITコンサルティング企業「(株)アズイミツツ (<https://icmp.jp/>)」に委託し、ホームページの作成発注することを決定。

「HP準備委員会の立ち上げ」を会員総会に立案することを決定。委員会の正式な立ち上げには会則の変更が必要なためである。現ウェブ担当である久保田英子がHP準備委員長として会則の変更をもって任命・就任する。また、同時に「委員には何らかの謝金を支払うことを検討することとなった。こちらも総会で正式決定。リニューアルが済んだ後にはHP準備委員会はHP委員会となり、メールの振り分け、返信等を含むIT関連業務を行うべきとの案が出た。

3. その他

① 決算報告

3月中旬に提出される。監査役の承認意見がついた監査書類をメールにて回覧し、3月中旬に承認を通すことが確認された。

② 種の保存法について

国内希少野生動物植物になると予算がつく一方で、標本の移動に制限がかかるという現状がある。貴重な標本の廃棄を防ぐための緩和策として「個人から個人、研究目的的教育目的の移動(場合によっては金銭を伴う)を可能にする」旨の要望書を出したい。法改正もしくは現状の法解釈の確認を後押しするため、他の昆虫関連学会との連名で要望書が提出できないかという議題について、要望書を出すという意見については満場一致、中身については別途諮ることで決定した。文案は整合性を詰めた上で今年の夏以降の議論を行う方針が示された。

③2023年蝶類学会大会招待講演について

齊藤光太郎理事より「慶應義塾幼稚舎 相場博明教諭」の推薦があった。相場教諭は3005年前の那須の地層からミスジチョウの化石を発見している。招待講演について反対意見はなく、齊藤理事の方から相場教諭に連絡を取ってもらい講演依頼をすることが決まった。

海外招待講演も検討を開始した。候補として、シコロベッツ(ウクライナ)、ラヌス(ペルー?南米)、フランク(イギリス)の3名があげられた。それぞれに打診を行い、理事会とは別に検討を続ける。

対馬バタフライフォーラム雑感

◎文/写真：長谷川 大(理事)



◆写真説明

Fig. 1: シェットフオイル Venus 2.

Fig. 2: 嶋屋瀬の二次林.

Fig. 3: 赤島大橋.

Fig. 4: 括り罠に捕まったイノシシ.



Fig. 1



Fig. 2



Fig. 3



Fig. 4

ナラどきにカシワが二次林を形成している。道端に車を停めて傘を差しながら歩くが、飛び出すのはキタキチヨウくらいのもので、あわよくばオオミドリシジミの♀でも…という淡い期待はすぐに打ち砕かれた。

ナラどきにカシワが二次林を形成している。奇跡的に雨が止み薄日射してきて、フオトラム時間が迫るがここは一勝負といきたい。積んできた長竿にメッシュネットを付けてアベキやカシワを叩いてまわる。葉に付いた滴でネットはすぐに濡れてしまっが、小さなシジミチョウが1頭また1頭と飛び出してくる。いったん赤島大橋で記念写真などを撮って

後に関いたことだが、対馬の空に管制塔はなく有視界飛行のみなのでこの時期の欠航はよくあることなのだとか。対馬博物館の谷尾さんに連絡をとると「天候回復の見込みは薄く次発が飛ぶ保証もないので航空運賃の払い戻しを受けたらシェットフオイルで来てください」とのこと。列の後方を見ると矢後副会長の姿が見えたのでそのことを告げ、一緒にタケ

■1日目(2023.7.7)
羽田空港を朝7時に飛び立った。便は予定どおり8時45分に福岡へ到着した。空港職員に対馬への断中であり9時過ぎの案内を待っていた。先の搭乗便では富士山も御蔵山もきれいに目えていたのに、今空港の外はかなり強い雨が降っている。その後9時を待たずして対馬便の欠航を告げる放送が入り仕方なく指定窓口に並ぶ。(まったく幸先の良いスタートだ。)

雨。結局空路長崎経由で来島を予定していた栗山編集委員は昨夜20時過ぎの船便で到着。菱川会長は夕方福岡に到着するも足留めに会い、本日午後到着の船便で来島されること。伊藤次期運営委員長に至っては、フオトラムに間に合うかどうかも怪しい。朝食は一日前から滞在している高嶋ご夫妻と一緒させて頂いた。シで博多港へ回向。港に着くと、10分後に出港のことで慌ててチケットを購入し、乗船。途中吉岐を經由し、予定どおり昼過ぎには対馬の厳原港へ到着する。乗船後も雨は降り続いていったが、予想外に海は穏やかで快適な船旅であった。これで演者2名の対馬入りは果たせたが、会長はじめ島外からの参加者はどうなるのだろうか？

■2日目(2023.7.8)
昨日に引き続き、今日も朝からフオトラム開始の14時まではまだ間があるし、ゼアリスの講演をせずに帰るのは嫌なので、作業後は一旦山を下り、以前訪れたところのある嶋屋瀬方面へ行ってみることにする。これは複雑に入り組んだ海岸線と、なかなか丘や小島が織りなす独特の景観が広がる島内。有数の景勝地でもある高台を走る道端から見える周囲の丘はやや矮小化したアベキやコ

飛び出したチヨウは風に流されてなかなか止まってくれない。

ふと、妙な気配を感じて振り返ると括り罠に捕まったイノシシが道端の水たまりの中で暴れている。対馬ではシカ害とともにイノシシによる農業被害もひどいと聞いた。こんなところで実物に出くわすとは…。

気を取り直し、飛び出すチョウオナガシジミだった。冬場にはコナガシジミが採れなかつたのには成虫の数はそこそ多い。対馬ではコナガシジミがアベマキが真のホストなかもしれない。8頭を捕り込んだところで時間切れ。雌雄を判別している余裕はないからすべて活かして持ち帰る。

「バタフライナイト」

ホテルで着替えて、13時45分に博物館へ着くとつい先ほど船で蔵原港に到着したという夙川会長がすでに会場入りされていた。外はあいにくの本降り。それにもかかわらず時間前から熱心な一般参加の方が複数組お見えになり、共催者サイドとしては誠に感謝の念に堪えない。

夙川会長による開会挨拶に続き、夙川会長の前座を務める私は「対馬のゼラールス」と題し、この地に分布するウツロミドリシジミやキリシミドリシジミの

に加えてこの荒天例えだでも諦めはつくというのだ。

そんな思いも相まって「コナラの底にオサムシの姿を認めたときには心底喜びが込み上げた。ツシマオサムシが2頭、3頭と景気よく入ったコナラもあり、ついにはこれより一回り大きいウツロミドリキも目に飛び込んできた。安物の合羽のせいで全身びしょ濡れだが、目的の虫さえ採れれば自然に鼻歌が出るのだから我ながら現金なものだ。

「ウツロミドリシジミ観察会」ホテルへ戻って濡れた服を着替え、荷物をまとめて「オサムシの環を済ませると「オサムシの環として企画された「ウツロミドリシジミ観察会のため、上島の某所へ向かわなければならぬ。9時過ぎに対馬市の公用車とシタカトに分乗した一行は一路島の北部を目指す。途中立ち寄った佐護ラニシヤノメやハラビロトシボ



▲Fig.5

分類について話をさせていただいた。

続く夙川副会長はウツロミドリシジミの保全活動について数ある事例を取り上げて講演され、夙川会長が「子どもに限らず、実際に見たり触れたりしたものが、その大切さは理解できない」「昔は、昆虫を採ったり飼ったりすることに結んでおられた。

講演後、ウツロミドリシの保全



▲Fig.8



▲Fig.7

ら「子どもたちに生き物の大切さを活動とされるという男性が活動されているという男性が



▼Fig.6



▼Fig.10



▼Fig.9

なりの意味があった。この趣旨の返答されていたのが印象的だった。対馬の子どもたちにとってウツロミドリシは自然の仕組みを学ぶ格好の教材なのではないだろうか。

■3日目(2023.7.9) オサトシジミ

予報どおり本日朝から雨。17時頃の飛行機は天候調査次第の不吉なメーカが届く。それはともかく、昨日仕掛けたトラップを回収せねばならない。5時起きで独り山へ向かう。早朝の天候は昨日よりさらに悪く、垂れ込める霧と横殴りの雨で薄暗い地面に埋めた白い紙コップを探すのにも苦労する有様である。

対馬のオサムシは有名なウツロミドリシやキリシミドリシやオサムシの対馬亜種のものしか、その2種。前者に近縁なメーカオサムシの例に照らすと新成虫の出現にはまだ少し早いと思われ、少な

が姿を現してわれわれの目を楽しませてくれた。

屋敷後対馬市自然共生課の皆さんが待ち合わせ場所にお見えになり、観察会場の保全区まで軽トラで先導してくださった。荒天ゆえか一般参加はなく、観察会は学友関係者のみで実施することになった。この時点で雨脚はかなり強くなり、正直なところウツロミドリシの姿を見ることのできることは到底思えなかつたが、夙川副会長だけは「間違いないと見られます」と自信

- ◆写真説明
- Fig.5: 夙川副会長による講演。
- Fig.6: フォーラム最終えて記念撮影。
- Fig.7: ウツロミドリシのオサムシ。
- Fig.8: ハラビロトシボ。
- Fig.9: ウツロミドリシのメーカ。
- Fig.10: ウツロミドリシのメーカ。



Fig. 12



Fig. 13



Fig. 14

満々である。対馬の山林のシカ害も私の住ぶ神奈川県同様に目を覆いたくなるような惨状で、スギの植地の林床はむき出しの土壌とスギの枯れ枝で一面覆われている。小さな流れてに沿って林内を進んでいくと、シカ柵で囲まれたエリアが大小3か所あり、境界に設置された扉をくぐるあたりは景色は一変し、成虫の吸蜜植物となるハエドクソウや食草のヌスビトハギ類をはじめ、柵内には膝の高さまで草が繁茂しており、シカが顕著になる以前の林床の姿がそこにはあった。ありがたいことに、ほどなく陽が射してきて、待望のツシムカラホシジミがチマチと飛び始める。発生初期なのか、個体が圧倒的に多く、追飛行動や吸蜜行動が見られたが、カヌラを構えるとスッと離れていってしまう。早は食草や花に長く止まってくれるようなのだが、この点だけは少し残念多い時で、5個体ほどが視界

たので会長はじめ参加者々が心ばかりの寄付をよせることができたのは幸いであつた。翌日まで滞在するという斐川会長、栗山編集委員長伊藤次期運営委員長らとは現地で別れを告げ、16時40分。焦りまくる私を尻目に、矢後副会長はいつものことばかりに涼しい顔をしている。福岡行りに際しては、対馬ハタラシの時間をあつた。最後になるが、対馬ハタラシの時間であつた。

■おわりに

置する対馬やまねこ空港へレンタカーを飛ばした。一時ではあつたが晴れ間が覗くという幸運に気を良くし、少しのんびりし過ぎたらしい。レンタカーを返却し、送迎車で空港入りしたのは離陸20分前の16時40分。焦りまくる私を尻目に、矢後副会長はいつものことばかりに涼しい顔をしている。福岡行りに際しては、対馬ハタラシの時間をあつた。



Fig. 11

に入ると、参加者はみな満足した様子だつた。神宮さんによれば、手よかの楽園のように見えるこの保全区も倒木などによる柵の破損がスギに常に晒されており、万一シカの進入を許せば、個体群の消滅に直結する。ことから、定期の見回りやメンテナンスが欠かせないのだと言ふ。一口に生物種の保全と言つても、こうした日々現場で行われる地道な取組や、地権者、地域住民及び自治体職員との理解として、諸々の財政負担の上で、辛くも成り立っているものだと、いうことをわれわれは肝に銘じなければならぬ。その後市が用意してくださつたヌスビトハギ類(ヌスビトハギ、クヤハギ及びツジカンソウ)のポット苗を参加者全員で保全区内に移植する。よく見れば、柵の隙間からシカが頭を突っ込んで摂食するので、柵に沿って50cmほどの部分は柵内でも裸地化しており、増えすぎたシカとの攻防はこんなところにも垣間見られる。作業をし

- ◆写真説明
- Fig. 11：シカ柵を境に左右で環境は一変。
- Fig. 12：食草の移植を行う会長ら。
- Fig. 13：移植した食草の苗。
- Fig. 14：観察会を終え記念撮影

(左から伊藤氏、長谷川氏、神宮氏、斐川会長、矢後副会長、栗山編集委員長)、神宮氏の手には募金箱。ら御礼を申し上げる。

「岡山県蝶類データ集」作成にあたって

◎三宅 誠治



■皆さんは、何かちよっと良い蝶を採集して短報を書こうとした際に、既に記録があったかどうか、調べるのに苦労したことはありませんか。或いはある蝶に関して、自分の住む県の分布や観察記録を調べるのに手間取ったことは無かったでしょうか。私は30年前に、それらの手間を省くため、地元岡山県での記録を拾い上げ種別にノートに書き写しておくことにしました。しかし実際に書き写すのは面倒な上に忽ちノートは一杯に成り、とても続けられる作業ではありませんでした。諦めかけた頃、丁度世間にパソコンが普及して個人でも持てるようになって

きたので、ノートをパソコンに切り替えました。それ以降、発表された記録を集めて入力をつけて今に至りますが、当初はあくまで自分用のデータベースとしてでした。そんな作業を続ける内に、他の人にとっても便利な物だろうと考え、2002年に最初の岡山県蝶類データ集を発行しました。そして一度始めたデータ収集は、出版したからと言って終えることが出来ず、それが貯まったため続編を発行することになりました。既にご覧になった方には、利用価値がお分かり戴けると思いますが、そうではない方のために少し説明させて戴きます。

第一集で最も古い記録は、1735年に江戸幕府の命により備前池田藩が提出した藩内の生物を含めた産物の目録でした。それから2000年までに報告された3万2千38件、第二集では2001年～2020年の間の1万6千880件の記録を収録しています。これは文献の数ではなく、そこに記されたデータの数です。種ごとに、場所、日付、採集者や執筆者、掲載文献や記録の内容などが一目で分かります。言い方を変えれば、書庫一杯の数百万円する文献の山から、岡山県に関する情報を抽出してこの二冊に纏めています。それまでベテランしか持っていない文献や知識を、初心者でも瞬時に手に入れることが出来るわけです。

1 前回出版した時の状況と、今回改訂版を作成した背景 &

2 前回と今回の作業環境の違い
 前回は主に過去の文献を探して記録を拾う作業なので、古い文献を手に入れるのが最大の問題でした。自分が知らない文献が多数ありますし、仮に分かって何処にあるか、どうやって手に入れたら良いか、悩みは深かったです。そこで、幾つか文献を集積している同好会や博物館、研究所などを

訪ねてコピーをとったり、文献コレクターと言われるような人に頼んだり。また、今は無き蝶研出版も、全国の同好会から文献を集めていました。「見に行く」と言ったときに「欲しいものは送る」とご配慮を戴きました。そして最後には、白水隆先生の文献目録に掲載されながらも入手できない物があつた際は、先生に九大に保管されているそれを発掘して閲覧するための紹介を依頼したところ、「わざわざ来なくていい、コピーを送ってあげる」と言って送ってくれました（勿論先生がコピーするのではなく、学生に探し出させてコピーもさせたのでしよう）。これらの古かったりマイナーだったりする文献を発掘するのは骨が折れましたが、一番残念だったのは、関係者が既に亡くなっている場合でした。記述に疑問があればすべてクリアにすることを目指している、多分百通を超える質問の手紙を関係者に送りました。もうあと十年早くこの作業を始めていたらと、随分後悔しました。そのように30代から40代に掛けての10年間を、受験生並みの生活でデータ収集のために費やしました。

ただ今回の第二集では、過去に遡る必要はありませんでした。2000年

以降も、新たに発行された物からデータを拾う作業は継続していたので、それを20年間続けただけです。前回は大変な想いをした分、今回は悩んだこともあまり無く、手応えのようなものをそれほど感じられないのが正直な印象です。

3 実際の発行作業状況

(作成時間、印刷所との調整、経費など)

作成作業は、まず文献に目を通し必要なデータがあればパソコンに打ち込みます。引用文献があれば、芋づる式に遡っていきます。ただ、これは単純作業です。大変なのは、記述された内容の検証です。以前は同好会誌などに採集記がよく掲載されました。遠方から採集に来て、採集場所が○山とか、○地域のように曖昧に書かれていて、正確な地名などが分からないものがよくありました。世に言う5W1Hが抜けているわけです。また、記述された地名と自分の知る当地の環境とが一致しない場合もありました。これらは可能な限り執筆者に手紙を書いて確認して貰いました。また、同一人物が別な冊子にも報告を書き、その内容が食い違っていることもよくありました。今と違い、電車やバスそして歩きで採集に行っていた頃に、同じ日

に遠く離れた場所での採集データがあれば、どちらかが誤っているのでしょう。一人の採集者の記録を、日付や場所でソートして整合性を確認することも必要でした。時代が新しくなると、段々とそんな問題点も減ってきました。皆さんが投稿に慣れてきたのでしよう。

さてそうして原稿が完成すると今度は印刷ですが、20年前と今では状況が大きく変わっています。今なら、ネット検索で全国の印刷会社の見積もりを取ることも出来ますし、メールで簡単に質問も出来ます。自分で完全な原稿まで作成すれば、格安で印刷してくれる所を探することも可能です。しかし以前だったら限られた会社と話をし、原稿を渡したら先方任せでした。印刷費用をあまり節約することは出来ません。ただ逆に難しくなっているのは、今は書籍を購入してくれる人は以前に比べて減っています。価格と販売目標、これは難しい問題でしょう。

もし今後他県でもデータ集を作る際に、気をつけておいた方が良いでしょう。書きかたを戴きましよう。採算度外視なら別ですが、限られた経費で印刷する際に問題となるかも知れません。データ集となると、恐らくページ数が

増えて本の厚みが増します。製本の機械は会社によってまちまちで、製本できる厚さに限りがあります。ネット印刷で安く仕上げようと思っても、会社によっては分厚すぎて対応不可となる可能性があります。そこで厚みを減すため印刷用紙を薄くすることが考えられますが、印刷機により刷れる紙の薄さに制限があります。薄い紙に刷るのは特殊印刷の分野で高価になります。原稿は仕上がったもののそこから進まない、私も用紙の選定と会社のマッチングで一ヶ月程頭を抱えていました。それさえクリア出来れば、あとはスケジュール通りに本が出来上がってくるでしょう。

4 情報収集方法と、

人的ネットワーク構築方法

データ収集は、まずは地元同好会誌から始めれば良いと思います。必要なデータが多く掲載されているのでしようから、仕事も捗ります。進捗を実感できれば倦怠感も軽減されます。次に手許にある他県の文献や学会誌や図鑑など、徐々に範囲を広げていきますが、引用文献も確認することは必須です。先輩方がヒントを残してくれているのですから。近くに図書館や博物館など、文献が保管されている所が

あれば、その書庫も漁った方が良いでしょう。そして虫屋として有り難さを感じたのは、文献を多数所有する人の協力を得られたときです。私が頼った松江の友人のように、「○と○と○の同好会の会誌を創刊から全部」とか、「書棚の本を車に積めるだけ全部」のような無茶な依頼に答えてくれる人はそう居ないかも知れませんが、日頃からの付き合いは大事でしょう。また、記録を読んで著者に疑問点を質問するということは、あなたの記述は間違っているかと暗に突き付けるようなものです。これも許されるような自分でなければと思います。それともう一つ、自分がやっていることを出しやばらない程度に周りに伝えることでしょうか。日頃の会話の際に情報を戴けることもありますし、初対面でも相手がそのことを知っていて、厚遇してくれたこともありました。虫屋の付き合いは有り難いですね。

5 今後の地方における

蝶類情報の集積についての考察

私は岡山県に拘っているからと言って、他県に興味が無いわけではありませぬ。ただ、他県の状況を知りたいと思った際に、手軽に詳細が分かる資料が無く立ち止まってしまいます。

出来ることなら、すべての県でデータベースが作成されたならと思います。冒頭でも触れましたが、過去の記録を簡単に知ることが出来ればどれ程便利でしょうか。自身が住む県で初記録かどうか分かる人は多いでしょうが、市町村レベル(同好会誌の短報に載る程度)まで把握している人は少ないでしょう。ある種の県の分布図を作ろうと思っても、情報集めからスタートするとどれ程の時間がかかるでしょうか。岡山県だと、思いついたら直ぐにプロットを始められます。ある種の調査やその纏めを思い立ったときに、記録の一覧があれば再確認の足掛かりになりますし、空白地補完という問題設定も容易く出来ます。その地域の発生時期もデータから知ることが出来るでしょう。先人が残してくれた生態観察の記録なども、埋もれさせずに認識できます。種の衰亡が論じられることが多くなってきましたが、その基礎データである過去の記録を無視した議論は危ういと思います。データベースがあれば、現在との比較を行うことも可能です。また誰がいつ何処で何をしていたか、先人の歩みが見えてきて、ロマンに浸ることもしばしばです。今度、私がやってみようと思っ



「岡山蝶類データ集II」

お申し込みは以下まで。
昆虫文献六本脚でもお求めいただけます。

■価格6,000円+送料520円

(冊子と共に郵便振込の用紙を送付)

三宅誠治 Miyake Seiji e-mail : miya@tamano.or.jp

のリスト作りです。同時に、岡山県で記録された蝶すべての異常型の目録です。これも、大した手間はかからず出来てしまいます。思えば便利なことだらけです。是非、各地でデータの集積と纏めが行われることを願っています。

「岡山県蝶類データ集」に続け!

ここ100年ばかりは、地球の人口が約25年で倍増し続けている。わたしが生まれてから、ヒト *Homo sapiens* の数は、すでに4倍をゆうに超え、概算では2の3乗、8倍近く、このままでは近未来に100億人に達して、地球の資源を蚕食し続ける。回りまわっての齧寄せが、蝶を含む野生動植物に及ぶ。

岡山市に住むようになって、県内では見ることもないまま、ヒョウモンモドキのように姿を消したものもいる。ウスイロヒョウモンモドキやゴマシジミのように急激に数を減らしたり、まだ見たこともない蝶も、本書『岡山県蝶類データ集II:西暦2001年~2020年発行分』(2023)を頼りに、探することができる。他方、クロマダラソテツシジミやメスアカムラサキ、リュウキュウムラサキのように、21世紀に入って記録されるようになったものもいて、本書で採集新記録の可能性を簡便に探ることができる。

2023/2/4、三宅誠治さんから本書(データ数16,880件、A4判600ページ超)の「出版のお知らせ」をメールで受け取り、迷わず直ちに申し込み、2/8

には現物を拝受して、即日、代金(6,000円)と送料(520円)の合計6,520円を振り込んだ。収録されている岡山県の蝶類に関する情報量のはかり知れない価値は、同著者による前著『岡山県蝶類データ集』(2002)から容易に想像がついたからである。裏切られることはなかった。

本シリーズを範として、全都道府県、否、わずかの地域でも類書あるいは類電子データ集がとりまとめられれば、蝶類に関するとてもない人類の知的遺産を後世に遺すことができる。直ちに、日本蝶類学会の編集関係者に連絡し、「何とか本書の紹介ができないか」と途を探った。宇野彰さんが、三宅さんに連絡をとってくださり、著者本人による紹介記事が、本ニュースレターに掲載されることになった。なお、現在は印刷版だけが存在しているが、本書を含むデータ集は、電子テキスト版も遺して、将来はインターネット上に公開、全文検索を可能にする仕様が望ましい。現在、文字コードは迷うこと無く、UTF-8を使うべきである。

(2023/8/15、高崎浩幸 [本会理事] 記)

①2022年度 一般会計収支実績(2022年1月1日~2022年12月31日)

	項目 (内訳)	当期実績 (内訳)	前期比	前期実績	備考
収入の部	会費	2,736,000	▲77,000	2,813,000	
	会誌売上	96,100	▲16,300	112,400	
	広告料	130,000	▲80,000	210,000	
	寄付	9,540	▲6,960	16,500	インセクトフェア売上
	雑収入	0	+0	0	別刷代
	預金利息	13	▲2	15	
	収入合計①	2,971,653	▲180,262	3,151,951	
支出の部	印刷費 (小計)	1,625,024	+244,459	1,380,565	未払
	バタフライズ第88号	498,586	+92,219	406,367	
	バタフライズ第89号	438,757	+4,010	434,747	
	バタフライズ第90号	428,829	+17,803	411,026	
	ニュースレター印刷費	193,980	+122,865	71,115	
	その他	64,872	+7,562	57,310	
	通信費 (小計)	154,780	▲19,475	174,255	
	郵送料	154,780	▲19,475	174,255	
	電話	0	0	0	
	その他	0	0	0	
	総会費	96,249	+96,249	0	
	運営費	459,518	▲7,425	466,943	事務委託費40万円
	会議編集費	200,000	+0	200,000	
広告料	0	+0	0		
雑費 (小計)	99,311	+33,871	65,440	入金件数増加	
金融機関手数料	92,776	+27,676	65,100		
消耗品費	6,535	+6,195	340		
その他	0	+0	0		
支出合計②	2,634,882	+347,679	2,287,203		
年度収支③(=①-②)	336,771	▲527,941	+864,712		
前期繰越金④	7,727,619		6,862,907		
次期繰越金(=③+④)	8,064,390		7,727,619		

②2022年度 基金口収支実績(2022年1月1日~2022年12月31日)

	項目	金額	備考
収入の部	前期繰越金	10,341,582	
	預金利息	84	
	合計	10,341,666	
支出の部	一般会計への振り替え	0	
	次期繰越金	10,341,666	銀行普通預金
	合計	10,341,666	

③資産明細(2022年12月31日現在)

1. 一般会計

郵便振替口座	7,590,187	前受金(2023年度以降会費)	1,023,000
銀行普通預金口座	2,392,376	未払金(No.89,90印刷、郵送)	946,716
現金	258,161	事務委託費(2022/7~12)	206,618
		次期繰越金	8,064,390
合計	10,240,724	合計	10,240,724

2. 基金口

銀行普通預金口座	10,341,666	次期繰越金	10,341,666
合計	10,341,666	合計	10,341,666

運営委員会からのお知らせ!

◆今年度の会費をお納めください!

当会の会計年度は1月から12月までです。2023年度の会費をまだ納入されていない皆様は、お忘れ無きようお願いします。事務局業務を外部委託しましたので、これまでよりも迅速に宛名ラベルの会費納入状況の更新が可能になっております。これまで「入金したのに宛名ラベルに反映されていない」事態がたびたび発生して会員の皆様にご迷惑をお掛けしていましたが、この点は改善されました。

◆公式ウェブサイト、ブログやTwitterでも情報発信中です!

当会の情報は公式ウェブサイト(「日本蝶類学会」で検索)、ブログ(「BSJ Blog」)、Twitter(bsj_t アンダーバーです)など複数のメディアで公開しております。ぜひ一度覗いてみてください。ブログは2012年に開設して以来、累計アクセスがほぼ90万近くになっています。Twitterのフォロワーも順調に増加して、とうとう3,000人を超えました。これからさらに積極的な情報発信に力を入れたいと思っております。WEB関係に詳しい会員の皆様のご協力もお願いします。今度はInstagramに進出しようかどうか悩み中です。

◆会員の勧誘にご協力を!

日本の蝶界の高齢化に伴い、当会の会員数も減少傾向に歯止めがかかりません。幸いなことに新規会員の参加もあって、大幅減にはなっておりませんが、今後の見通しはまったく明るくありません。今後少しでも当会の活動が安定して続くためには会員増が欠かせません。ご友人などでまだ会員になっていない方が身近におられましたら、ぜひ勧誘していただきたいと思っております。新規会員には会誌のバックナンバーも入会特典として差し上げております。また、ニュースレターなどは会員勧誘用に残部もありますので、お気軽に下記の事務局までご請求下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆情報提供お待ちしております!

こんな蝶を見つけた、でも、最近こんな蝶が減ったでも構いません。身近な話題をどしどしお寄せ下さい。ニュースレターにも掲載していきたいと思っております。送り先は下記まで!

【編集後記】

現在これを書いているのは9月半ば過ぎですが、未だに日本各地で35℃以上の猛暑日が記録されていて、一体日本の気候はどうなってしまったのでしょうか。これから寒地性の種はどんどん北方や高標高地に追いやられてしまうのではないかと心配でなりません。今シーズンはどこも虫の数が少なかったようで、あまり景気の良い話が聞こえてきません。まだしばらくシーズンは続きます。9回裏で大成果が上がることを期待しています。【M】

発行日どうしますか?

Butterflies Newsletter No.85 (September, ●, 2023)

発行：日本蝶類学会

〒113-0001 東京都文京区白山1-13-7 アクア白山ビル5F

勝美印刷(株)内 「日本蝶類学会」事務局

TEL 03-3812-5223/Fax 03-3816-1561

E-mail; bsj@shobix.co.jp

郵便振替口座 00170-1-334608 日本蝶類学会